

常 花 の 苑

tokohana no sono
の



冬枯れの二月、植物が密やかに息を潜める真冬の京都府立植物園に、永久に枯れない花園を咲かせたい。

そんな想いをきっかけに、2018年から植物をテーマにした企画展を開催し続けています。2020年からはテーマを“絶滅危惧植物”に、展示タイトルも「あしもとにゆらぐ」へと変え、植物を取り巻く自然環境や危機に瀕した種の未来を想うきっかけ作りの場をアートの力で提供することに注力してきました。それと同時に、共に活動する若手アーティストに対しても発表の場を提供しています。

常花の苑実行委員会では、植物に関する事柄以外に関しても、アートの力によるブランディングや販促物へのイラスト・デザイン提供、企画立案のお手伝い、若手アーティストへ展示機会の提供と支援を行っています。



◀ 表紙イラスト内植物

フウラン(風蘭)

大木に着生する多年草。
花は白色で湾曲した細長い距があり、芳香がある。
野生の個体数は極めて少なくなっている。

環境省カテゴリー:絶滅危惧Ⅱ類(VU)
分布:本州(関東以西)、四国、九州、沖縄県、济州島、
中国大陸。

活動実績(沿革)

2月 「常花の苑に咲くものたち」

第1回 若手作家による植物画展

参加作家 20名 来場者数 1,800名

8月 「机上の温室」

第2回 若手作家による植物画展

参加作家 27名 来場者数 2,000名

1月 「花染の白苑」

第3回 若手作家による植物画展

参加作家 8名 来場者数 1,300名

2月 「あしもとにゆらぐ」

第4回 若手作家による希少植物画展

参加作家 21名 来場者数 2,800名

1月-2月 「あしもとにゆらぐ vol.2」

第5回 若手作家による希少植物作品展

参加作家 37名 来場者数 3,000名

「Off To Tokohana」同時開催

常花×北山街協同組合スピンオフ企画

2018

2019

2020

2021

学術協力

長澤 淳一

京都府立大学京都地域未来創造センター客員教授。
千葉大学園芸学部園芸学科卒。在学中から稀少な植物を求めて全国各地を巡り写真撮影を始める。京都府丹後農業研究所、京都府山城園芸研究所を経て1991年より京都府立植物園へ。樹木係、温室係を担当した後、2013～2017年まで同園の園長を務める。長く絶滅危惧種の調査と保護、増殖を中心に活動を続ける。

瀬戸口 浩彰

京都大学大学院地球環境学堂生物多様性保全論分野/大学院人間・環境学研究科生物環境動態論講座(併任)教授。専門は植物の系統分類学や系統地理学を基盤とした進化多様性に関する研究、および絶滅に瀕した植物集団の保全研究。



『知っておきたい日本の絶滅危惧植物図鑑』(創元社)

グッズ制作事例

さまざまなジャンル・商品へのイラストの提供とデザイン制作が可能です。



◀ スマホケース



▲ 卓上カレンダー



▼ Tシャツ



▶ タンブラー



▼ 手ぬぐい

過去出展作家(2020年～)

イケガミヨリユキ / 磯崎菜那 / 一色真由美 /
奥田さちよ / オノユウコ / かとう ゆきお /
きし寿句弥 / 熊八木ちさ / 小鷲 / 佐野裕一 /
シバタリョウ / 朱華 / 畫正 / 白野有 / 杉浦由紀 /
すみお / せきぐちよしみ / ただあやの /
タテヤマフユコ / TOMIYOSHI / トヨダイズミ /
なえ / 名司生 / なな / ねじれ / 根杉ねぎすけ /
nobara△ / 萩結 / 巻田はるか / matagot /
まつむらまいこ / 末山りん / 南あやか / みりん /
ムー / むすび / momoc / 森ノリコ / もんちほし /
やまさきあやこ / 山月まり / 優 / 佳 / 吉田 真百合 /
(五十音順)

töt (会場 BGM 協力)

全企画展 合計出展作家数 63 名



<https://tokohana.info/>

常花の苑 実行委員会
実行委員長 三浦 利幸
実行委員 佐々木睦美
一色真由美

✉ info@tokohana.info